

ほほえみ

第59号 2024年3月発行



独立行政法人 国立病院機構
七尾病院

〒926-8531 石川県七尾市松百町八部3番地の1
TEL (0767) 53-1890 (代)
FAX (0767) 53-5771
ホームページ <https://nanao.hosp.go.jp>



『七尾城址』橋本義則（七尾美術作家協会会員）

理念 笑顔と誠実な医療を通じて世の中に貢献する

私達の信条

私達は、患者さんにいつも愛と思いやりの心で接します。
私達は、国の担うべき医療を提供し、地域に親しまれる病院を目指します。
私達は、質の高い医療を提供し続けていくために日々研鑽いたします。
私達は、医療の進歩に貢献するために臨床研究を推進します。
私達は、互いに協力し、働きがいのある明るい職場作りに努めます。

目次

令和6年能登半島地震を振り返って……………	2-3
職場だより(放射線科)……………	4
防犯研修(さすまた講習会)を終えて……………	5
第29回結核臨床研修会報告……………	6
第77回国立病院総合医学会に参加して……………	7

令和6年能登半島地震を振り返って



病院長 安井 正英

本年は、1月1日より能登半島地震対応から始まり、新年のご挨拶も申し上げることもなく慌ただしく過ぎました。改めて、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、当院を含め被災者への暖かいご支援、ご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

例年今年の抱負を述べさせていただくところですが、今回は当院での震災状況および対応について振り返ってみたいと思います。

まず、1年で最も職員が不在となるタイミングで地震が発生したため、私をはじめ多くの職員が病院近隣にはおりませんでした。さらに、津波警報および主要道路や公共交通機関も途絶していたため、発災当日には幹部職員が一人も病院に辿り着けませんでした。当直医は非常勤医師であり、当直師長が中心となり、様々な震災対応を当日勤務者と病院敷地内官舎職員のみで支えてくれました。1月2日の早朝には、私がかんとか病院に辿り着き、本格的な震災対応を開始しました。職員が病院に集まらない状況は全く想定しておらず、年末年始など長期連休中の待機体制を考える必要があると痛感しました。

当院は津波警報時の避難場所となっており、地震直後より近隣住民の方が約300名ほど来院され、外来スペースに椅子も追加配備し、夜には病院よりペットボトル飲料水を提供させていただきました。翌日以降も留まっている方が複数おられ、避難所ではないため場所の提供以外のサービスはできないことをご理解いただけないことがありました。

ライフラインとしては、電気は大丈夫でしたが、地域全体に断水状態となりました。しかし、当院では生活用水として井戸水を利用しており、手洗いやトイレは使用できました。通常上水を1日35t～40t使用しており、上水タンク65tのため制限しても2日しかもたないことが予想され、ペットボトル飲料水を大量に購入することに奔走し、給水援助も依頼しました。ペットボトル飲料水は、まず国立病院機構グループより次々届けられ、加えて行政機関や様々な団体からも提供いただき、十分な量が確保できました。給水車は当初金沢から水をくんでくるため、1日5tしか給水がえられず、井戸水をポンプを使って上水タンクに移し飲料水以外に使用することとしました。その後は、徐々に近隣からの給水補給も可能となり、1日30t～40tの給水がえられるようになり、上水使用も段階的に拡大し1/18ようやく飲料用にも使用開始しました。2月下旬でもまだ上水が再開しておらず、上水がきたとしても、飲料用としての検査に一月はかかるため、完全復帰は4月になりそうです。井戸水の使用は、コスト削減のみならず災害対策の上でも極めて重要であることを改めて実感しています。



病院設備に関しては、電気、ガス、酸素には問題はありませんでした。病棟のエアコン室外

機がすべて破損したため暖房ができなくなりました。正月のため暖房器具の調達も困難であり、とりあえず全職員に電気ストーブの提供をよびかけ、NHO本部や行政にも依頼を行いました。病室温度



は16-17℃に低下しており、全患者さんに掛け布団を追加し、電気毛布も大量に取り寄せ配布を行いました。数日で電気ストーブが100台以上集まり、病棟廊下にも仮設エアコンを設置する対策などで、病室室温は20℃以上に保てるようになりました。そして、当初3ヶ月はかかるとされていたエアコン室外機の調達も、会社の協力もあり2月中旬には調達し修理ができました。冬の暖房対策は、今回の経験からある程度対処方法がわかりましたが、真夏の暑い時期に災害がおこった場合、暑さ対策はより一層難しいと思われ、十分考えておく必要があります。

エレベーターもすべて使用できなくなりました。このため、食事や物品の運搬はすべて階段を使った人力で行う事態となりました。さらに、1/2から1/5の間に通院中の患者さんやDMATからの要請による緊急入院を16名受け入れましたが、自力で動けない方ばかりであり、中でも人工呼吸器を装着している患者さんの入院には大変な労力を要しました。1/6になりエレベーター4基のうち3基は稼働できましたが、余震が続いており安全のため人は乗せない運用としました。そのため、入院患者さんの画像検査や生理機能検査がほぼ行えない状況が1/9まで続きました。今回の地震はエレベーターメーカーの想定を超えていたとのことですが、今後震度7にも耐えうる仕様や、緊急時リモートでも安全確認が迅速にできるシステムの導入が望まれます。



給水と井戸水により上水は維持できていましたが、給湯タンクが2基とも破損し、全くお湯が使用できなくなりました。1/10給湯器の修繕が完了し、段階的に上水の使用範囲を拡大後、1/22よりようやく患者さん達の入浴が再開できました。ただし、職員の多くが私生活では断水生活が引き続き強いられており、病院内のシャワーさらには洗濯機も24時間いつでも使用できるようにしました。

人工呼吸器など医療機器はほとんど損傷がみられず幸いでしたが、電子カルテモニターや画像サーバーなどPC関連の損傷があり、今後PC関連の地震対策をどのようにすべきか考える必要があります。



以上、震災による被害と対応の概要を述べさせていただきました。いろいろ失敗や無駄も数多くありましたが、すべてが貴重な経験であり、当院のBCP作成に生かしていきたいと思えます。最後に、今回の震災において、自身が被災しながらも病院のために頑張っていたいただいた全職員の方々に深く感謝申し上げます。中でも、ボイラー技士の宮下さんには、地震発生当日より様々な病院内設備トラブルに昼夜をとわず対応いただきました。宮下さんは、当院のあらゆる設備に精通されており、宮下さんがいらっしやらなければ、今回の危機は乗り越えられなかったと思われ、この場を借りて御礼申し上げます。

職場だより (放射線科)

診療放射線技師長 青島 崇

放射線科は、診療放射線技師2名の職場です。皆様が安心して検査が受けられるように、心がけて検査を行っています。私たちの院内での業務は、胸部や腹部や骨の写真を撮るX線撮影検査。360度方向からX線を照射して輪切りの画像を作るCT(コンピューター断層撮影)検査。人体を透過したX線を動画として、リアルタイムに観察や撮影をするX線TV検査。人には聞こえない超音波を使用し、踵の骨の密度を測る骨密度測定です。他にも放射線検査室の漏洩線量測定や被ばく線量の管理等も行っています。院外では、原子力災害医療協力機関としての活動があります。今回はその活動の報告をしたいと思います。

皆様もご存じの通り、石川県には現在停止中(定期点検中)の志賀原子力発電所があります。1999年9月の東海村JCO臨界事故をきっかけにして原子力災害対策特別措置法が制定され、2011年3月の東北地方太平洋沖地震の東京電力福島第一原子力発電所事故を教訓にして見直されました。今年度の石川県原子力災害訓練は、原子力災害対策特別措置法に基づく原子力災害対策指針等を踏まえ、志賀原子力発電所2号機から放射性物質が放出されたという設定で行われました。発電所周辺地域に影響が及ぶため志賀原子力発電所の30km圏内の住民避難訓練を行いました。その中で、私たち診療放射線技師は、避難退域時検査(避難所へ入るための検査)場となっている石川県立看護大学で避難された皆様の汚染検査及び簡易除染を行う訓練でした。訓練の内容は、ポケット線量計(検査を行う者の被ばく線量を測る機器)の説明、サーベイメータ(避難住民の皆様の汚染を測る装置)の操作・養生・測定方法、避難退域時検査票(避難住民の皆様の汚染状況を記載する用紙)の記載方法の説明を広島大学放射線災害医療総合支援センターの方にさせて頂きました。実際の訓練では、指定箇所検査を担当し、避難退域時検査場に来られた約100名の避難住民の皆様の汚染の可能性が高い頭・顔・手・足を測定しました。私においては初めて参加した訓練であったため、原子力災害時における診療放射線技師の必要性を実感することが出来ました。皆様も、今後起きてはならない原子力災害に対するの備えを、訓練に参加するなどして整えておくのはいかがでしょうか。



頭の線量測定



手の線量測定



足の線量測定



測定方法の説明中



養生された
サーベイメータ



線量測定訓練実施中

防犯研修(さすまた講習会)を終えて

地域医療連携室 医療社会事業専門員 近藤 洋平

本研修は七尾警察署の方々の協力を得て企画し、令和5年9月27日に防犯研修（さすまた講習会）として院内スタッフ全員対象に実施致しました。

近年の犯罪の凶悪化に対して、当院においても院内スタッフの防犯意識向上や不審者等への対応力を向上することをねらっての開催です。

当日は、二本立ての研修とし、前半はさすまたの効果的な扱い方について、警察官の方に指導を頂きながら、一人一人のスタッフ自身がさすまたを実際に手に取り扱いながら、さすまたの基本的な扱いについて学びました。後半は前半を踏まえ、警察官の方に不審者役となっただけ、院内スタッフがさすまたで不審者に対抗しながら、警察への通報、到着までの実践さながらのロールプレイ主体での講義をしていただき大変緊張感溢れるものとなりました。

院内のスタッフからは「実際にさすまたに触れたことがなかったのでいい経験であった」「いつこうした事態が起こるかわからないので研修での経験を元に備えたい」「決して他人事ではない、我が事として自分は何ができるのか考えていきたい」など一人一人が今後の院内防犯意識や体制の向上について関心をもつ機会となり、大変良い結果となったのではないかと思います。

こうした研修は、イベントごとや一回きりでの企画では効果は乏しく、風化してしまうものです。今後も継続的に次年度について企画、提案を行い患者様、院内スタッフの安全確保に向けて取り組んでいきたいと考えております。

最後に、忙しい通常業務の合間を縫って打ち合わせ、当日の指導・講義を行っていただきました七尾警察署の方々に深くお礼をこの場でさせていただきます。本当にありがとうございました。



さすまたの基本的な扱いについて学ぶ



さすまたで不審者を取り押さえる訓練

第29回結核臨床研修会報告

専門職 萱間 宣浩



令和5年11月12日のと里山空港（石川県生涯学習センター能登分室）において当院主催の結核臨床研修会を開催いたしました。それまで毎年開催しておりましたが、令和2年よりコロナのまん延に伴い研修実施を中止しておりましたが、皆様方の協力により今回は感染予防対策を講じて実施することができました。

当院では、結核臨床研修会は結核医療における地域の医療機関相互の連携強化を図り、結核医療の向上に努めることを目的としております。平成27年度から、当院は石川県における結核対策の中核病院に指定され、本研修会により力をいれております。

先ず始めに石川県能登北部保健所次長 小向 信明先生より「能登北部保健所管内の結核患者の発生状況について」ご講演いただきました。近年は結核罹患率が減少していることや、結核患者は80代以降が大半を占めること、若年層では外国出生者数の新登録者数が多いことなどが述べられていました。

当院からは、安井正英院長より「結核の診断と治療—最新のポイント—」と題し、肺結核診断のながれや結核菌検査の方法、症例に基づく入院基準などの説明がありました。次に「潜在性結核診断と治療」と題して、泉谷麻子医師により、発病リスク要因から判定基準の説明がありました。次に藏田垂矢結核看護院内認定看護師より「施設内の結核対応と当院の結核患者に対する看護」と題し、結核の早期発見や対応方法、結核感染防止策、施設内対応などについて説明がありました。次に、中川かつ枝感染管理認定看護師から「施設内での結核患者発生時の接触者調査について」では入院患者から結核菌陽性患者が発生した場合の対応策から、保健所からお知らせまでの説明がありました。最後に、N95フィットマスクの着け方について、注意すべき箇所を説明し演習を行いました。

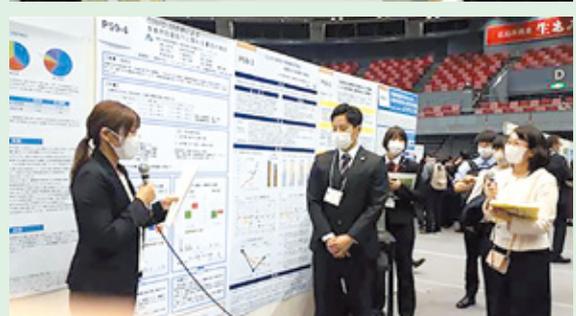
研修終了後のアンケートでは「結核の基本的な事から、最新の事まで学ぶことができた。」や「実際のN95マスクのフィットでテスト体験できてよかった」など好評の声をいただきました。今後も、結核対策の中核病院として頂いたご意見を参考に、定期的に結核臨床研修会を開催していく予定です。



第77回国立病院総合医学会に参加して

臨床研究委員会 副看護師長 田本 奈津恵

国立病院機構主催である国立病院総合医学会は、令和5年10月20・21日に広島県で開催されました。現場で取り組んだ症例報告や研究、QC活動の発表を、看護部やリハビリ科、医局、地域連携室から合わせて10演題（排泄ケア、拘縮予防、院内デイケア等）発表があり、認知症や栄養サポートチームの多職種チームからの報告も行いました。発表までには、院長からの厳しくも温かい指導があり、新たな知見を得たときの愉しさは言うまでもありません。会場では、他施設の方々と意見交換ができ達成感を味わい刺激を受けたこと、以前共に働いた先輩や同僚、旧友との再会、また交流集会では、美味しい料理を頂き満喫できました。また、来年にむけ新たな気持ちで頑張りたいと思います。



職員募集!

- 児童指導員 (非常勤)
 - 事務助手 (非常勤) 一般事務
- を募集しています

問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構七尾病院
(0767) 53-1890 (内線1105)

ご希望の方は、お気軽にご連絡ください。

外来診療担当医表

外来受付時間 8:40~11:30 13:00~15:00

区分・時間	月	火	水	木	金	
呼吸器内科※1	午前	安井	(安井)	藤村	藤村	安井
	午後			藤村	藤村	
脳神経内科	午前	横地	木元・横地	木元・橋井	森永	森永
内科	午前	横地	陳	橋井	森永	泉谷
	午後	横地	陳	橋井	森永	泉谷
消化器内科	午前		陳			
小児科	午前	泉※2	泉※2	押切	押切・泉	押切
	午後	押切	押切	泉	泉	
内科 (皮膚/形成)		井川※3 (13:00~17:00)	藤村啓 (10:30~15:00)	藤村啓 (10:30~15:00)		木村 (13:00~15:00)
ペインクリニック内科	午前	高澤	高澤・松島	高澤	高澤	高澤
	午後		松島(第2)	高澤		松島(第4)
循環器内科	午前				安田	

※1 呼吸器内科の慢性咳嗽外来は予約診療となります。初診で診察ご希望の方は事前にお問い合わせをお願いします。

※2 小児神経・発達障害・てんかん外来の初診は予約制です。診察ご希望の方は事前にお問い合わせをお願いします。

※3 褥瘡診察で予約制です。診察ご希望の方は事前にお問い合わせをお願いします。

病院概要

■医療法病床 239床

■標榜診療科

内科、脳神経内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、小児科、ペインクリニック内科、リハビリテーション科



案内図



JR七尾線「七尾駅」下車
→北鉄バス【和倉温泉行】にて
(3.7km./約15分)七尾病院前下車
→徒歩5分(500m.)

※平日の午前中は坂下まで
病院バスの送迎あり



編集後記

令和6年能登半島地震におきまして、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。私は、電気・ガス・水道などのライフラインを当たり前のように使用していた日々が懐かしく思います。皆様からの励ましの言葉や物資、洗濯や入浴等の支援を頂き、大変助かりました。優しい心遣いを感じ、ありがたき幸せに存じます。働く職場があり、帰る家があるということに感謝し、止まるも行くも、これからも余震に警戒する日々ではありますが、共に『がんばろう能登、がんばろう石川、がんばろう北陸』と心をこめて、地域医療連携に尽力していく所存です。 医療社会事業専門員 坂本 千夏子